

平成28年度 第1回中野区総合教育会議

- 1 日 時 11月18日(金) 開会：午後1時00分
閉会：午後1時24分
- 2 場 所 区議会第3委員会室
- 3 出席者 (構成員)
田中区長、田辺教育長、田中教育委員、小林教育委員、渡邊教育委員
(関係職員)
川崎副区長、本田副区長、篠原経営室長、横山子ども教育部長・教育委員会事務局次長、海老沢政策室副参事(企画担当)、朝井経営室副参事(経営担当)、辻本子ども教育部・教育委員会事務局副参事(子ども教育経営担当)、杉山教育委員会事務局指導室長
(事務局)
経営室経営担当職員
- 4 議 題 (1) 中野区教育大綱について
- 5 傍聴人数 2人

6 議事経過

【午後1時00分開会】

[経営室長]

ただいまから本年度第1回中野区総合教育会議を開催させていただきます。

教育委員の皆様におかれましては、本日お忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

それでは、まず本日の予定を説明させていただきます。お手元の次第にありますように本日の議題は、「中野区教育大綱について」でございます。

事務局から、お手元に配付いたしました資料に関して説明した後に、ご協議をお願いしたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

それでは、早速、本日の議題に入らせていただきます。「中野区教育大綱について」を議題に供します。

昨年度来、この会議を開いていますが、いただいたご意見をもとに、本日、お手元に「中野区教育大綱（案）」をお配りさせていただきました。

担当副参事からの説明の後に、ご協議をしていただきます。それでは、説明をお願いします。

[政策室副参事（企画担当）]

それでは、教育大綱の案につきましてご説明させていただきたいと思ひます。

昨年度の第5回中野区総合教育会議の中では、教育大綱の構成案ということで「基本理念」「めざす人物像」「目標とする姿」「取組の考え方」という4項目について、さまざまなご意見をいただいたところでございます。

今回の教育大綱（案）の中では、「目標とする姿」と「取組の考え方」を、「教育のありかた」という形にしてまとめさせていただきました。ご協議をよろしくお願ひいたします。

まず、前文をご覧いただきたいと思ひます。前文の中では、中段以降でございますが、「豊かな人間性を身に付け、よりよい人生を送るため、自ら成長し続ける姿勢」ですとか、5点ばかりの項目を上げさせていただきました。その中で、普遍的な価値観の育成ということが必要だということをお願ひ申し上げます。

その中で、「守るべき人としての根幹的な価値を大切にしつつ、時代の変化を適切に受け

止め、より良い社会に向けて変化をリードする」、こういった人材を育てていくことが中野区の教育の目指すところであると結論づけたところでございます。

その下の段でございますが、それに対しまして、「成長のための指導や支援、機会・環境の提供を保障します」、あるいは「全ての区民が、自ら学び、自らの健康を高め、積極的に社会と交わり、社会貢献することを通じて、生涯に渡って成長し続け、自己実現することのできる地域社会づくりを推進します」ということで、前文を構成させていただいています。

次に、この前文をもとにいたしまして「1 基本理念」でございますが、いくつか視点を出させていただいております。

1つ目、「教育の充実・発展に努めるために、区政の全ての面を通じて施策の連携を図ります」ということでございます。2つ目といたしまして、「知徳体のバランスを重んじ、多様な体験と実践の場を用意します」。3つ目といたしまして、「自己学習、相互学習の二つの面を大切にし、自ら学ぶ力を養います」。4つ目といたしまして、「個性に応じた成長の機会が得られるよう環境整備と適切な保護・支援を行います」。最後の視点といたしましては、「子どもたちの成長を見守り、支える家庭・地域・学校・関係機関の協力を進めます」ということになっております。

「2 中野の教育がめざす人物像」といたしましては、次の4項目にまとめさせていただいております。

「(1) 自らの力で道を切り拓く、進取の気性を持った人」「(2) 多様な人間性を理解し、思いやりにあふれる人」「(3) 公共心に富み、社会に役立つとする人」「(4) 祖国、故郷、わがまち、家族を愛する人」という項目となっております。

この人物像を実現するための目標といたしまして、以下の取り組みといったところで、項目立てをしております。

1つ目は「未来を拓(ひら)く力を育む教育」というところで、国語力、数学、あるいはコミュニケーション能力を育成すること、人間として基礎となる力を確実に身に付けることと、1人ひとりの個性や関心に応じて発展的な学習を目指している。

2つ目といたしまして、「多様性を理解し、自他を認め合う社会を目指す教育」というところで、個人や社会の多様性を理解する教育に力を注いでいく。後段になりますが、「誰もが自らの個性や特徴、年齢、性別、思想信条などによって障壁を感じることなく活動することのできるユニバーサルデザインの考え方に基づいて、まちづくり・人づくりを進めま

す」ということになります。

3つ目といたしましては、「主体的な健康づくり・スポーツ実践に結びつく教育」というところで、健康づくりによって生涯にわたって生き生きと過ごせる力を養うことを目指すということです。また、食生活や食習慣を確立することと、中段では、疾病についての基礎的な知識を身に付けること、後段では、日常的な運動習慣を身に付けるということで環境整備を進めるといったことが書かれています。

次の視点としては「社会を築く力を育む教育」で、よりよい社会づくりに生かそうとする意欲を養うために自らの経験などを生かせるようにしていくというところで、学校教育での視点、それから地域に開かれた学校づくりといった視点が記載されています。また、年齢や性別を問わずすべての区民が、自らの意思や条件に応じて社会参加できるということと、社会貢献を通じて自己実現を図れる全員参加型の地域社会を目指すといったところでございます。

最後の視点といたしまして「普遍的な価値観を育む教育」といったところで、ふるさとや国を愛することなど、人として生きる上で大切な価値観を身に付ける教育を進めるという部分でございます。自らの根拠となる国をよく知る、愛するというところから、未来志向の生き方を身に付けることを目指していこうと。学校教育の中では文化、芸術、音楽など、豊かな価値観を形成できるような機会を提供することと、また、区民視点としては、豊かな芸術文化に親しんで、そういった体験ができる条件の整備を進めていくことを記載してございます。

以上、中野区教育大綱（案）ということで、本日も協議していただきたいと思っております。

[経営室長]

それでは、ただいまの説明につきまして何かご質問等ございますでしょうか。

[田中委員]

これまでの議論を含めて、すごくよくまとまっていると思います。特にこの前段のところはすごくいい文章になっていると思います。

ただ、「健康」という言葉が1つだけ出てくるのですけれども、やはり健康というのは自ら獲得して維持していくというのが、これはまさに教育だと思うので、何かもう少し「健

康」という言葉がどこかに、前文の中の5点、目指していくこの中に健康教育という言葉が入るともう少しいいかなと感じています。健康教育。あるいは健康教育でなくても、健康を自らつくるというような「健康」という言葉があるといいかなと思いました。

[小林委員]

これまでいろいろ議論させていただきまして、そういったものを前提にお示しいただきましたが、私もよくまとまっているのではないかなと思います。

特にこの中で、一番目を引きやすいのは、「人物像」ではないかと思っています。もちろん全体的に大事なのですけれども、この4点に集約していただいたということも、数としても適正だと思います。

今、田中委員からお話がありましたけれども、健康的な体、「知徳体」でいうと「体」の部分ですね。これがあえて全体を通してそういうことを言えるとも思いますし、どうなのかというところは迷うところでもあります。

それから、これは一教育委員の個人的な考えとして、お話しをさせていただきますと、(1)の内容は、もちろん全体4つともいいと思いますが、「気性」という言葉はどうしても生まれつきという感じが印象としてありますので、例えば気概を持つという言葉がなじむかなと思います。ただ、私はどちらかという和学校の中でずっと仕事をしてきました。区行政の中でも仕事をさせていただきましたけれども、学校の言葉としては気概を使い、気概というと意思が強いとか、目指すものがあって、気概のある、気概を持った人という印象を持ちます。もちろん「気性」はだめというわけではないですけれども。

[区長]

気風というのはどうですか。

[小林委員]

気風というと、どうしても主体的でないというか、あるものに合わせてしまう感じになるかと思います。

[区長]

評価して言っている言い方になってしまうのですね。

[小林委員]

どうしても気風という自分がつくるというよりも合わせるみたいな形になってしまいます。気概という自らの意思を持って形づくっていく、気性というやはり生まれながらにして持っているという印象を持ってしまう。言葉のこだわりなのでどちらでもいいのですけれども。

(2)は「多様な人間性を理解」する。もちろんこれでいいと思うのですが、下の3の中に書いてあるように、「認め合う」という言葉がいいかと思います。理解というと一方的に自分が相手に対して理解するのですが、お互いに、双方向の関係で良さを認め合うという形で「多様な人間性を認め合い」とかそういう言葉がなじむのかなと思いました。

次に(3)、もちろんこの内容でもいいと思いますが、「公共心」と「社会に役立つとする」というのは、ステージとしてはやはり社会ですね。そうすると、「公共心」という言葉も捨てがたいのですが、例えば「公德心」と置きかえた場合、個人的なレベル、または自分が周りの人たちと一緒にそういう人間性を高めて、そしてやがて社会に貢献する人になるという、そのステージとしての広がりというのでしょうか。「公共心」でもいいと思うのですが、例えば「公德心」という言葉も、ひとつ最終的な中で考えてみては。

[区長]

「公共心」というのは確かに熟語としてなじんでいないですね。「公共心」という言葉はあまり聞いたことがないと思う。

[小林委員]

「公共心」というとやはりどうしても社会全体というか、薄まってしまう印象がありまして、「公德心」は個人のそういった考えという気がします。

次に(4)、これも中身はもうこのとおりで、「祖国、故郷、わがまち」と広がっていくのですが、「わがまち」と「故郷」を1つに考えた場合、「祖国」というのを「我が国、我がまち」と言うほうが何となく並び方がいいのかなと思いました。我が国を、そして我がまちを、そして我が家族と。中身はこういう方向でよろしいかと思いますが、注目されるので、言葉としてはこの方がいいかなという私見を述べさせていただきました。

[区長]

3つ並ぶ必要はないかもしれませんが。何となく口がもたつきますよね。「我が国」というのは、新聞記事などで「我が国の何々が」というような言い方もされたりするので、その辺は何か一工夫というところだと思います。

[小林委員]

私の今の考えはどちらかというと、いわゆる学校社会の中の雰囲気です。むしろ、あえて教育大綱はそうではなくてという考えもあると思います。

[区長]

おっしゃるとおり言葉が洗練される形になると思うので、とてもいいご提案だと思います。

[経営室長]

そのほか、ご意見はありますか。

[渡邊委員]

我々が今まで論議してきた内容が十分に盛り込まれているので、ありがとうございます。我々の言った区長の思いがこちらのほうに聞こえてくるような文章ということで、前文のところで「中野区で育つ全ての子どもたちに対し、学校教育、地域活動、行政施策などを通して成長のための指導や支援、機会・環境の提供を保障します」という部分は非常にありがたい言葉だなと感じました。思いだけ言うのではなくてある一定の行政として約束していただけるという、強い思いが入ってきているのではないかと感じています。こういった部分が豊かな人間性といったことに対してよろしいかと。

全体として、気にするところはないのですけれども、(3)の「役立とうとする人」というところで、役立つ人ではなくて「役立とうとする人」というと、どうかなという思いがあります。役立てる人になるとかではどうかと。

[区長]

「役立とうとする人」というのは、確かに言葉にしたとき、読んだときにもたつきます

ね。

[渡邊委員]

「めざす人物像」であれば、自分は役立てる人になるのだというのだったらいいのですけれども。やはり文書としてひとり歩きするので。

次の(4)ですが、ここの並びの順番「祖国、故郷、わがまち、家族」について、これは新聞的な並び方なのですけれども、本当は家族を愛したい人が1番なのかとか、家族を守りそして我がまちを守り、そして祖国を守る人なのかという、そのあたりの思いを込めるのであれば、この典型的な文章の並びではなくて、やはりまず家族を愛する人たちをつくる、家族を愛する人。そして、家族を愛し、我がまち、故郷、祖国を愛する人と言ったほうが、もし思いがあれば、伝わり方としてはいいのかなと思いました。この文言の表現だけで、全体的に言っていることではないのですが、思いを伝えるというイメージで考えると、そうしたほうがいいかなと。

あとは本当によく書かれていて、とてもよろしいのではないかなと思います。

[経営室長]

ほかに教育委員会からのご意見等がありましたらお願いいたします。

[教育長]

本当にそれぞれの委員さんがお話くださったように、これまで区長と教育委員会とで話をして、さまざま議論してきたことが本当に結実をしたと思っています。

小林委員からもありましたように、個人から始まって家族、地域、我が国というこの空間的な広がりが本文に出ているのですけれども、それだけでなく前文で2036年から始まって将来に向かっての時間軸ということで、3次元的に広がっているので、素晴らしいものになったかなと思っています。

教育委員会はずっと教育大綱について議論させていただきながら、今、教育ビジョンの改定作業に取り組んでいますので、区長と同じ目標で具体的な教育政策も進められると思っています。よろしくお願いいたします。

[経営室長]

それでは、ご意見等ないようでしたら本日の協議内容につきまして簡単にご紹介させていただきます。

田中委員からは健康教育といった視点、言葉が入っていないというご指摘がございました。また、小林委員からは「人物像」に関しまして、(1)の「気性」という言葉の使い方についてのご意見をいただきました。また、互いに認め合いながらというような、互いの人間性を尊重し合うような意味合いのご意見もいただいております。また、「公共心」という言葉について、「公德心」はどうかというご意見をいただきました。また、「我が国、我がまち、我が家族」という表現のご提案もございました。渡邊委員からもこの順序を入れかえ「家族、故郷、我が国」としてはどうかというご意見を伺っております。

教育長からは、教育ビジョン改定について進めていただくというお話もございました。議事の要旨につきましては、簡単なものをまとめさせていただきます。来週中にはお届けさせていただきますので、ご確認をいただきたいと考えております。

[区長]

「人物像」の(3)で渡邊委員が「役立とう」というのは「役立つ」ではないかという話もありました。

[経営室長]

重ねて、「役立とうとする人」、この部分の表現についてご意見があったことを合わせてご紹介させていただきます。

それでは最後に、区長からご発言をお願いいたします。

[区長]

何度か重ねながら、試行錯誤の末、こういった形でまとめてこられたと思っておりまして、また皆様のお知恵をいただいたことによって、まとめることができたと思っておりません。

今後、今日のご議論を踏まえて多少文案に修正を加えて、その上で議会報告ということも決定前にしていきたいと考えております。

議会報告をし、議会からのご意見などもあり、大きな変更が必要な場合には、またこの場を改めて設けさせていただくことを考えております。

ぜひ、よろしくお願いいたします。

[経営室長]

それでは、以上で本日予定しました協議は終了いたしました。その他といたしまして教育委員会から何かございますか。

他にございませんでしたら本日の会議はこれをもって終了いたします。

どうもありがとうございました。

【午後 1 時 2 4 分閉会】